

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

会場:あやテラス・ホール 綾部駅北出口から徒歩すぐ

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

4/13(日) 受付 10:00~ 上映開始 10:30~

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ペンワールド/PM S

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団

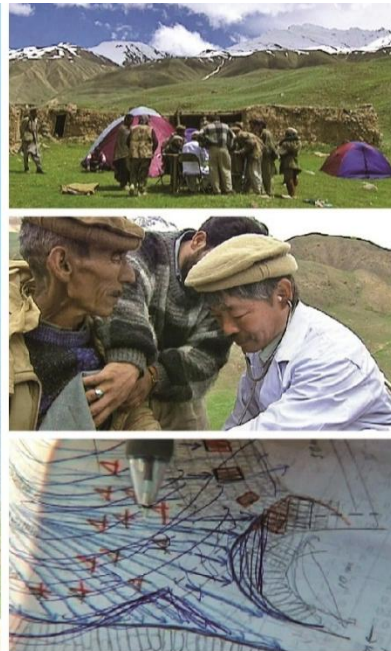
一般社団法人 日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の
仕事・働く
ということ

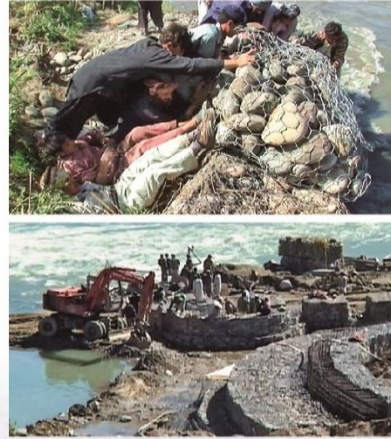
アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



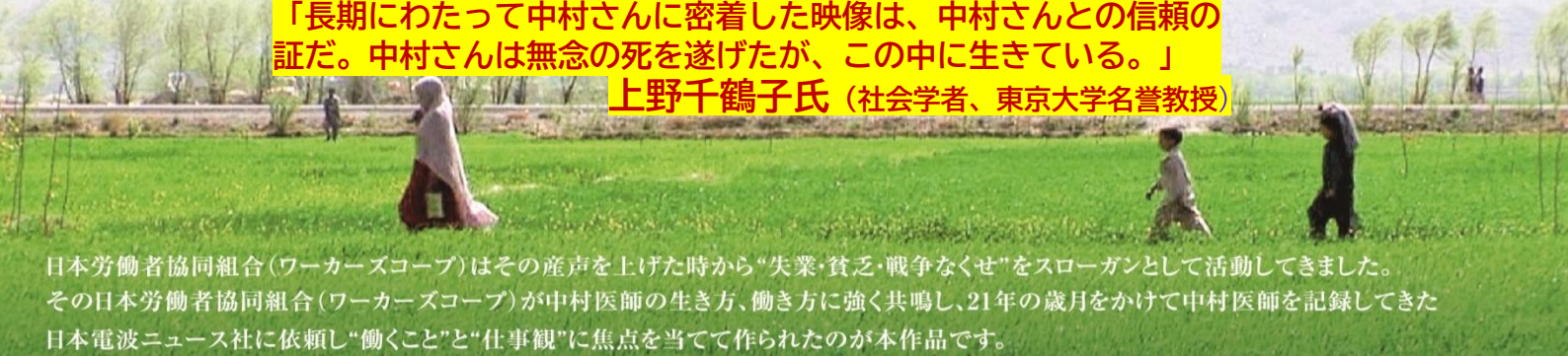
1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しきゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。
親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」
上野千鶴子氏 (社会学者、東京大学名誉教授)



日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)はその産声を上げた時から“失業・貧乏・戦争なくせ”をスローガンとして活動してきました。その日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し“働くこと”と“仕事観”に焦点を当てて作られたのが本作品です。

4/13(日)受付 10:00~ 上映開始 10:30~ あやテラス・ホール

定員 200名 (当日受付先着順) 綾部市青野町西馬場下 35 番地 1 綾部駅北口から徒歩すぐ

料金:一般 1,000 円 学生・障がい者 500 円 高校生以下無料(学生証提示必要)

※極力お釣りのないようにご準備をお願いいたします。

上映(47分)後、トークセッション(40分) 中村哲医師は、戦乱の続くアフガニスタンで医療活動に従事したのち、現地の人々の生命と健康には、清潔な水と食糧の生産が重要との見地から、住民とともに用水路建設に従事されました。惜しくも 2019 年に銃撃戦に遭遇して死去され、その後、旭日小綬章や内閣総理大臣感謝状などが授与され、今も多くの国民に慕われています。この映画とトークセッションは、中村氏の仕事を振り返りつつ、平和と地域の暮らし・健康・仕事を見つめる内容です。

<トークセッション登壇者> 北川太一氏(摂南大学農学部教授/前協同組合学会会長)
花垣ルミ氏(京都原水爆被災者懇談会の世話人代表)
平本哲男(本映画企画:日本労働者協同組合連合会センター事業団 理事長)

主催:映画『医師中村哲の仕事・働くということ』上映実行委員会
共催:労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団関西 日本社会連帯機構
後援:綾部市
問合わせ先:06-6476-7864 (担当事務局:平日 10:00~17:00)

